

血管内超音波検査（IVUS）について

PCIの領域においては、治療の選択時の補助として血管内超音波検査（IVUS）が果たす役割は非常に大きい。

NURDの存在が正確な病変の評価を不可能にするため、NURDを取り除くことが必要である。NURDを取り除くためには、pull back時にはIVUSカテーテルを屈曲させないこと、Yコネクター部分を出血させない程度に緩めること、ガイドカテーテルをcoaxialにすることなどが必要である。

不安定プラーク（vulnerable plaque）にPCIを行う場合、プラーク成分の流出により、末梢塞栓やslow flow現象の発症が懸念される。不安定プラークや血栓の同定に有用な病変の特徴としては、偏心性で大きなプラーク量を有する、血管はpositive remodelingしている、脂質コア（lipid core）を有するエコー減衰（attenuation）を伴う低エコー領域が存在するという点である。このような病変に対しdisal protection device使用下でPCIを行ったり、末梢塞栓を実際に発症したときの迅速な対処という意味でIVUSは有用といえる。